

# 令和8年度 学校経営方針

## 北海道旭川聾学校

【目指す子ども像】(校訓)	【目指す学校像】	【目指す教師像】
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ よく考えて 自ら学ぶ子ども (知育)</li> <li>○ 思いやりをもち 助け合う子ども (徳育・協働)</li> <li>○ 元気で たくましい子ども (体育)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもが進んで学びたい学校</li> <li>○ 保護者が安心して通わせたい学校</li> <li>○ 教職員が働きたい学校</li> <li>○ 地域の方々が寄りたい学校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教育的愛情をもち、幼児児童生徒の可能性を信じ追求する教師</li> <li>○ 聾教育の専門性や指導力向上のため、常に学び続ける教師 (授業改善のための ICT 技術を含む)</li> <li>○ ウェルビーイングの向上に積極的に取り組む教師</li> <li>○ 幼児児童生徒の気持ちを大切にし、必要な配慮に対して寄り添える教師</li> <li>○ 互いに支え合い、同僚性が高く組織的・計画的に業務を推進する教師</li> </ul>

### 学校教育目標

一人ひとりが個性を生かし、心身ともに健康で心豊かな子ども

【教育方針】	【経営方針】
<p>・「実物・実体験・本物・優れたもの」に触れさせ、学ぶ喜びを実感できる授業改善に努めるとともに、自分の力で考え、判断し、表現できる子どもを育成する。</p>	<p>・学校経営方針への意識を高くもち、「チーム旭川聾学校」として、全教職員が組織的に業務を推進することで学校教育目標を達成する。</p>
【教育の重点】(5つの充実)	【経営の重点】(5つの推進)
<p><b>主体的・対話的で深い学びの充実(SDGs・ESDを含む)</b></p> <p>1 学習の基盤となる言語概念を形成し、培った言語力を基盤として持続可能な社会の創り手を育む主体的・対話的で深い学びの実装を実現する。</p> <p><b>専門性を高める授業改善の充実</b></p> <p>2 幼児児童生徒の特性を踏まえた聴覚障がい教育及び特別支援教育の専門性の向上を図るため、研究や研修、授業実践に取り組み、授業改善を図る。</p> <p><b>教科指導の充実</b></p> <p>3 「わかる授業」を通して、学ぶ意欲を高めると共に、学びを深めるための思考力・判断力・表現力を育て、確かな学力を育成する。</p> <p><b>教育課程の充実</b></p> <p>4 子どもの良さを伸ばす指導に努め、全人的な発達と豊かな人格形成を図るため、育成を目指す資質能力を育成する教育課程の編成・実施・評価・改善を行う。</p> <p><b>ICTの効果的な活用の充実</b></p> <p>5 ICTの活用を推進し、個別最適な学び・協働的な学びの実現に向けて教育的効果を高める。</p>	<p><b>ウェルビーイングの推進</b></p> <p>1 かかわる誰もが「ウェルビーイング」を実感できる学校作りに取り組む。</p> <p><b>コミュニティ・スクール(CS)の推進</b></p> <p>2 地域学校協働活動としての旭川聾学校サポーターズを活用し、学校運営協議会と連携して地域や関係機関及びろう・難聴者との連携を強化する。</p> <p><b>センター的機能の推進</b></p> <p>3 聴覚障がい教育をはじめとした特別支援教育の道北(校区)におけるセンター的機能の発揮に取り組む。</p> <p><b>危機管理意識の高い教育環境整備の推進</b></p> <p>4 高い危機管理意識をもち、危機管理マニュアルの見直しを不断に行い、安全で安心な環境で教育活動を行う。</p> <p><b>働き方改革の推進</b></p> <p>5 教職員自らが効率的かつ効果的な業務の推進に努め、「学校における働き方改革北海道アクション・プラン」の趣旨を踏まえて、健康で質の高い働き方を実現する。</p>

### 令和8年度の重点 (学校設定項目)

- ・「実物・実体験・本物・優れたもの」に触れさせる教育活動を効果的に推進する。
- ・旭川聾学校サポーターズを活用した地域学校協働活動で効果的な教育活動を推進する。
- ・教職員自らの指導技術と専門性の向上を図る研修を充実する。
- ・ICTを活用した授業実践を推進し、教育的効果を高める。
- ・安全・安心な教育環境を整え、教育活動を推進する。
- ・教職員自らが効率的かつ効果的な業務の推進に努め、健康で質の高い働き方を実現する。

### 令和8年度 学校研究課題 (3年間継続研究)

「自ら考え、豊かに表現する力を育てるための指導法の工夫」  
～コミュニケーション力の向上を目指した実践～